

ギンザケの色揚げに対する合成色素の投与効果

加藤 邦 彰

ギンザケに合成色素のカロフィルレッドを投与することにより、肉色（サーモンピンク）の色揚げ効果を得るため試験を実施した。

材料及び方法

試験期間 昭和57年6月1日～8月30日までの90日間

供試魚 平均体重 550 g のギンザケで1区 180 尾とし、50 m² (5 × 10 m) の屋外コンクリート池に放養した。

試験区 カロフィルレッドは市販の配合飼料に対し 0.04% 量をフィードオイル（飼料の 3%）に吸着させ、対照区はフィードオイル 3% とした。給餌は魚体重の 0.5% を手撒きにより 1 日 1 回行い、飼育水温は 16.2 ～ 19.8 °C（平均 18.2 °C）であった。

効果判定 開始後 30 日、60 日及び 90 日目に各区 5 尾づつについて肉色の着色を比較した。

結果及び考察

結果は表に示したとおりで、肉色は投与後 30 日目では添加区で 5 尾中 2 尾に着色がみられ、60 日、90 日目はいずれも 5 尾とも対照区に比べかなりの着色が認められた。また、着色は卵巣にもみられたことから、飼料の 0.04% のカロフィルレッドを 50 ～ 60 日間投与することにより、肉色の色揚げ効果は期待できるものと思われる。

表 添加効果

投与後 日数	カロフィルレッド区		対照区	
	性別	添加効果	性別	
30 (日)	♀	着色	♀	
	♀	"	♀	
	♀	なし	♂	
	♀	"	♂	
	♀	"	♂	
60	♀	着色	♀	
	♀	"	♀	
	♀	"	♂	
	♂	"	♂	
	♂	"	♂	
90	♀	着色	♀	
	♀	"	♀	
	♀	"	♂	
	♂	"	♂	
	♂	"	♂	